



—東北生産性本部—

# 第37回仙台シンポジウム6月例会開催

テーマ「2014-2015年度の日本経済・金融市場展望」



■ 6月例会（6月30日開催）

★講師（株）大和総研 執行役員

チーフエコノミスト 熊谷 亮丸 氏

第37回仙台シンポジウムのスタートである6月例会は、大和総研チーフエコノミストの熊谷亮丸氏を迎え、54名の皆様の参加を得て盛会裏に開催致しました。

熊谷氏からは、安倍総理が進めるアベノミクスについて、**経済政策の基本的な方向性は正しい**。特に大胆な金融政策は、日銀との連携を含めて120点と高く評価しました。

課題として①**財政規律の維持**②**民間投資を喚起する成長戦略**③**雇用者所得の増加**となると指摘しました。現時点では、財政赤字の拡大から**国債暴落・円安・株安**のトリプル安が起こるというリスクが懸念されるため、今後は**財政規律の維持**が重要課題となる。さらに成長戦略によって、中長期的な**経済体質の改善**や**構造改革**をいかに進めるかが課題であり、具体的には、**規制緩和（労働市場、農業や医療・福祉分野の構造改革）、法人税の実効税率の引き下げ等の具体策の実行がカギ**となる。特に**非製造業の労働生産性を高める**と同時に、世界一である日本の**イノベーション**によるものづくりと円安をばねに輸出関連企業の収益が改善すれば、安定的に賃金は増加していき日本経済拡大は持続可能と期待を込めて参加者の皆様にエールを送りました。

**日本経済の見通し**としては、実質 GDP 予想は 2014 年度が前年度比+1.1%、2015 年度が同+1.5%で、消費増税の影響で一時的に低迷するものの、**年度末にかけて回復軌道**を辿る見通しである。これは①**消費増税による悪影響が限定的とみられること**②**米国向けを中心に輸出が緩やかに持ち直すこと**などが要因との見方を示しました。

また、**日本経済の最大のリスク要因**としては、中国の「**シャドーバンキング**」問題で、日本のバブル崩壊時の 2 倍程度の 200 兆円程度の不良債権であると指摘しました。

一方、わが国が長年悩まされてきた**少子化に歯止めをかけるためには、女性の社会進出をさせること**がポイントであると説かれました。

以上のように日本経済ならびに金融市場の展望についてわかりやすいご講演を頂戴し、大変有意義なシンポジウムになり、参加者の皆さまを含めましてご協力に感謝申し上げます。今後のシンポジウムの予定は下記のとおりとなっておりますので、今後も多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。

### < 第37回仙台シンポジウム 今後の予定 >

例 会	テーマ	講師
8月 4日	コンプライアンス考察～東京電力福島第一原発，東京都政等	中央大学法科大学院教授 弁護士 野村修也 氏
9月 9日	世界の潮流を読む～真にあるべき日本の基軸	(財)日本総合研究所理事長 寺島実郎 氏
10月16日	サービスイノベーションによる活性化の方向性	㈱良品計画代表取締役会長 松井忠三 氏
11月 7日	最近の朝鮮半島情勢と日本の対応	静岡県立大学国際関係学部 教授 伊豆見 元 氏
12月 2日	政権与党と野党の果たす役割	読売新聞特別編集委員 橋本五郎 氏

\*全例会とも会場は仙台商工会議所会館7階大会議室，時間帯は14時から15時半です。今後の各例会に参加ご希望の方は，東北生産性本部（TEL022-261-0411）までご連絡下さい。